

主催者挨拶

日本証券経済研究所理事長 増井喜一郎

日本証券経済研究所理事長の増井でございます。日本証券経済研究所設立六〇周年記念オンラインシンポジウムの開催に当たり、主催者を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日は、多数の方々に私どもの記念シンポジウムに御参加いただき誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。コロナ禍の下での開催となりましたので、御不自由をおかけすることもあるかと存じますが、何とぞ御容赦いただきますようお願いいたします。

日本証券経済研究所は、昭和三十六年（一九六一

年）八月一日に設立され、この八月一日で六〇周年を迎えることになりました。研究所は、当時の証券界首脳の高い理想と強いリーダーシップを背景として、いわば証券界の総意によって設立されました。研究所の設立に当たっては、証券実務と、学術研究すなわちアカデミズムの世界を連携させるところに重点が置かれていたように思います。研究所の設立に向けて尽力された当時の関係の皆様に対し、深い敬意と感謝の気持ちを捧げる次第です。

設立後の六〇年間、研究所が活動を続けてこら



増井喜一郎 氏

れたのは、日本証券業協会、東京・大阪の証券取引所、投資信託協会、さらには資本市場振興財団をはじめとする幅広い証券関係団体から手厚い財政的支援を得ることができたことによるものです。関係団体の皆様の御支援と御協力に深く感謝申し上げます。

証券の研究と申ししましても、研究所設立当時は、研究者はほとんどいない、研究機関もない、研究の蓄積も少ないという、大変心許ない状況に

ありました。その後、今日では、多くの研究者がこの分野の研究に携わり、証券会社系のシンクタンクも含め、さまざまな研究機関が活動するようになっていきます。この間、研究所自身は、証券の諸制度等に関する基礎的な研究を行うとともに、研究成果を踏まえた政策提言などを行ってきました。証券の諸制度の見直しにおいて、私どもの研究成果が実を結んだものもあり、その意味で、研究所は、設立後の六〇年間で、大変誇らしい研究成果を積み重ねてきたと考えています。これもひとえに、研究所における研究活動や研究所の運営に関わってこられた諸先輩の御努力のたまものであり、諸先輩の御尽力に心より敬意を表する次第です。

研究所では、これまで研究所の活動を支えてきた下さった方々への感謝の気持ちを込めて、研究所設立六〇周年記念オンラインシンポジウムを計

画しました。「環境変化の中の証券業」というテーマを巡って幅広い御議論をいただければと考えています。

証券界は、これまでいろいろな環境変化に見舞われてきました。その中には、多くの人が未曾有の変化と受け止めたものもありました。しかし、証券界は、その都度、立派にそうした変化に対応してこられました。現在の証券界を取り巻く環境変化も、見ようによってはこれまでと同じような変化と受け止める向きがあるかもしれません。しかし、現在、目の前で起きているデジタルライゼーションの進展やサステナビリティ重視の趨勢は、経済や社会の構造的なあり方を問い直す契機になるようにも思われます。このような認識を踏まえ、今日のシンポジウムにおいて、さまざまな方に御講演いただき、また、御議論を交わしていただくことは、大変有意義なことと考えています。

今日のシンポジウムでは、お手元にお配りしたプログラムのとおり、お二人の講師に基調講演をお願いしています。最初に、遠藤俊英元金融庁長官に御講演いただき、その後、一條和生一橋大学大学院教授に御講演いただくことになっていきます。

次に、NRIアメリカの吉永高士様から、アメリカにおける証券業の動向について御報告いただく予定です。

その後、この分野の有識者と証券会社代表の方々に御登壇いただき、パネルディスカッションを行っていただきます。モデレーターは、野村資本市場研究所の野村亜紀子様をお願いしています。パネリストとしては、先ほど御紹介しました吉永様のほか、大和総研の内野逸勢様、NTTデータ経営研究所の大野博堂様、岩井コスモホールディングスの笹川貴生様、岡三証券グループの

主催者挨拶

新芝宏之様に御登壇いただくことになっていきます。

今日のシンポジウムに参加された皆様が、この場での講演や議論から、今後の証券業者・金融商品取引業者の経営のあり方を考える上で、有益な示唆を得ていただけるようになることを心から願っております。

以上、多くの方々今日のシンポジウムに御参加いただいたことに感謝申し上げます、開会に当たっての主催者の挨拶とさせていただきます。(拍手)